

# FURUTECH

## Review

### Audio Accessory

### オーディオアクセサリー大全—2022-2023 - JAPAN



## インターコネクトの世界もNCF革命が始まった 信号系でNCFを初採用の新開発プラグ起用 フルテックの新たなフラッグシップケーブル

すでに電源系の端子やコンセント、周辺アクセサリ製品への採用で、絶大な反響を得ているフルテックのNCF素材。遂に、信号系の端子周りへの新たな採用と製品化が開始された。今般、RCAプラグ「CF-102 NCF(R)」が完成。プラグ単売とともに、完成品ケーブルでも発売されることになった。初起用されたのは、フラッグシップ・インターコネクトケーブル。そのNCFで強化された表現力を、福田氏が従来モデルと比較レポートする。

Photo by 田代法生

# NCF<sup>®</sup>

## FURUTECH Lineflux NCF (RCA)

RCAインターコネクトケーブル  
¥225,170 1.2mペア(税込)



#### Specifications

●導体：単芯α(アルファ) OCC導体 ●シールド：2層 ●絶縁：誘電体：高級ポリエチレン ●共振減衰材料：シース内のナノセラミック / カーボンパウダーコンパウンド ●ケーブル外径：約13.0mm ●プラグ外径：全長約φ14.0mm×54.0mm

新旧モデルを比較試聴すると、大きな違いが発生していることに驚かされる。インターコネクトケーブルはケーブル部と端子部によって構成されているが、とくにケーブルの部分に注目されがちだ。しかし筆者が研究してきた経験では、ケーブルとプラグの影響力は50%ずつであると考えている。したがって、いかにプラグの性能が重要であることが分かる。どのように優れたケーブルを開発しても、最終的にはプラグの性能でケー

フルテックの最高級RCAインターコネクトケーブルが、バージョンアップされて登場した。主な改良部分は、信号系の端子として初めてNCF(ナノ・クリスタル・フォーミュラ)素材を導入した。新開発のRCAプラグの採用だ。ケーブル導体については旧モデルから継承されている。

●好評NCFを信号系端子に初採用  
NCFのRCAプラグを新開発  
最高峰ケーブルに採用した



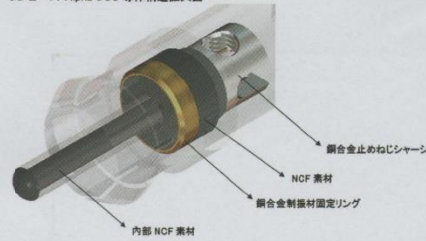
Text by 福田雅光  
Masamitsu Fukuda

# 高音特性やSN比、解像力などを高めて 躍動的な表現に勢いをもたらしめてくれる

新設計のRCAプラグ部。究極の帯電防止および共振減衰材料NCFを新たに調合



ワンピース Alpha OCC 導体構造拡大図



RCAプラグのセンターピン部分。チューブ状のα(アルファ)OCCロジウムメッキのワンピース中心導体内部に、静電気対策としてフルテックの特殊素材「NCF」を注入



ケーブル部の構造図。α(アルファ)導体は、OCCワイヤーで、Furutechのアルファプロセスで処理されている

ルのクオリティは左右されている。ここは、絶対的に重要な部分である。現在市販されている製品では、ここが最適でないためにいまひとつ最高性能が発揮されていない高級ケーブルが、特にXLRケーブルには多い。

機器間の信号を伝達するケーブルは、適当な選択ではあまり感度は出てこない。筆者は、自宅で使うケーブルは厳選し機器の絶対値を追求する。それは高額ケーブルではなく、低価格でもその条件に適していれば使う。常識的な範囲で得られることも重視している。

●世界トップ水準の製品開発力  
優秀で完成度が高く高信頼予想を超える効果を発揮する

ところでフルテックは、高級ケーブルブランドだとはあまり思われていない。そもそも、電源コンセント、電源プラグ、IECコネクタ、RCAプラグ、XLRパランスプラグ、Yラグ、バナナプラグなどの終端製品を積極的に開発してきた歴史があり、現在はこの分野で世界のトップメーカーである。ロジウムメッキの最高級製品、信頼性の高い品質を開発する

ことで知られている。このパーツに対する認識と開発力、そして完成度の高さは世界のトップ水準に到達している。このことはたいへん重要だ。世界的にはこうしたメーカーの勢いが低下してしまっている一方、フルテックは常に音質性能を研究し続けている強みを持っている。

最近の製品開発の動向は、NCF(ナノ・クリスタル・フォーミユラ)素材を導入して、SN比やクオリティを強化したパーツの製品化にある。今回は、NCFを採用した新製品と旧バージョンを比較

●Lineflux NCF(RCA)の音質  
NCFの効力を改めて実感する  
レファレンスクラスの性能だ

早速、NCF素材でバージョンアップされた最高級RCAケーブルと旧バージョンとを比較した。NCFを採用していない旧モデルのRCAケーブルは、中間帯域から中低域を主体にしたバランスで音の冴えや抜けは最高とはいえない。中低音はポリウムが主体になり、締めりも十分とはいえないナローな印象があった。

ところが新製品のNCF RRC

較試聴することができたため報告する。なおNCFは、ナノ粒子化したイオン化する特性の強い鉱物を樹脂とハイブリッド化したもので、2015年に開発された。フルテックではこれまでに最高級電源プラグ、IECコネクタの電源極固定部、またケーブルインシュレーターや機器接続プラグ部を固定するNCF Boosterシリーズを採用して、予想を超える効果を見せている。

ケーブル部分は同じであることからの制限も感じられるが、結果として魅力的な高級RCAインターコネクトケーブルの性能が達成されている。透明感のある中音のレスポンスがインパクトを明確に描き、それが躍動的な表現に勢いをもたらすと同時に、全体にコントラストを高めている。

ところでこのケーブルは、超写実やコントラスト・分解力の高さを徹底して突き詰めた設計という訳ではない。アナログファンにも違和感のない、柔軟にしてニュアンスの豊かさというよう要素も備えた音質設計を感じることが出来る。高級アナログマニアに趣向の合うRCAケーブルと言うことができるのではないだろうか。